

緑の相談コーナーだより

NO. 344 2014. 2 . 1 発行

岩見沢市志文町 794 番地

いわみざわ室内公園「色彩館」

身近な樹木 “ドウダンツツジ” (満天星躑躅) ～若葉の間に風鈴のような小花を咲かせる木～



ドウダンツツジ
Enkianthus perulatus (Miq.)

C. K. Schneid.

ツツジ科の落葉低木であるドウダンツツジ属は、日本には4種が自生しており、観賞用の庭木として重要な樹木です。北海道の冷温帯にも生育するサラサドウダンと本州、四国、九州の山地に自生するドウダンツツジ、シロドウダン、アブラツツジです。なお、よく庭木として栽培されるベニドウダンは、シロドウダン系の赤花品種です。刈り込みにも強いので生け垣にも用いられます。樹高はせいぜい2～3mですが、枝は1カ所から3本以上伸ばすことが多く、樹姿も美しく、春には葉とほぼ同時につぼ状の可憐な花を、しだれるように咲かせます。花も美しいですが、秋の紅葉も鮮やかで、長い間観賞することができ、本道でも人気があります。腐植質の強い土地を好み、また適度な湿度も必要ですが、丈夫で花つきが良いので盆栽などにも向いています。

繁殖は実生または挿し木によりますが、挿し木は比較的容易です。実生による場合、果実は裂開する前に採取し、陰干しして脱粒します。種子は乾燥して冷暗室に貯蔵し、翌春育苗箱などに腐葉土、鹿沼土、川砂、ピートモスなどを混合した用土を用い、表面に細かい水ゴケを敷き、そのうえに種子をまきます。発芽後は、幼時に立枯病を発生しやすいので、殺菌剤を散布してやりましょう。秋には4～8cmの苗になりますが、翌春、平方メートル当たり40～50本程度に床替えします。



Enkianthus campanulatus NICHOLS.
サラサドウダン

植物名の由来ですが、ドウダンは灯台の転訛で、枝の分かれ方が、3本の木をひもなどで結び合わせ、上下を広げて皿をのせる、結び灯台の脚に似ているところからきています。

材質と用途ですが、材にはフラボン配糖体のバイテキシンとリグナン配糖体のリオニサイドなどが含まれています。観賞用の庭木に用いられますが、一般にはドウダンツツジは庭木や生け垣として普通に用いられています。

触れてみしどうだんの花かたきかな

星野立子

満天星や歩み初む子に守り鈴

三沢今代



公園だより

バラ園



今年の岩見沢は、年明けから比較的穏やかな天候に恵まれ、お正月はまますの日よりでしたが、その後の寒波襲来で大雪の日が続きました。ここ2～3年の岩見沢は、連日豪雪に見舞われ、各種の障害が発生しましたが、今年の冬はどのようになるのでしょうか。バラ園は、適度に積もった雪がバラ達を包みこむように覆って、静かな眠りにについているようです。ハマナスの丘では、静寂の中に、ときおりカラ類などの小鳥が、木々の小枝を渡る姿を見かけるのみです。2月は、ほどほどの雪で平穩に過ぎ、バラや市民生活に影響が出ないよう祈りたいと思います。ちょうど良い厚さの雪布団の中で、春までゆっくり休眠してほしいものです。

今月のバラ園からの一口メモは、病虫害防除上の心得についてです。雪解けとともにバラの手入れがスタートしますが、バラ栽培をする上で欠かせないのが病虫害の防除です。しかし、これも適切な作業を行うことで、病虫害の被害を受けにくくなり、順調な生育をして、よい花が楽しめます。そのためには、①病虫害が発生しにくい環境を整えることです。日当たりと風通しのよい場所で栽培し、土に有機質をたっぷり入れて固く締まった株に育てましょう。鉢植えなら、雨の当たらない場所に置き、病気を発生させない水やりを行い、環境を整えましょう。それでも病虫害は発生しますので、②早めの防除が大切です。バラの株をよく観察し、病気の兆しや害虫を発見したら、ひどくなる前に対処するように心がけましょう。さらに、③病気に強い品種を選ぶことも大切です。耐病性は品種によって大きな差があるからです。

色彩館では、ツバキの花が見頃となってきました。厳寒の冬景色が広がる岩見沢にあって、真っ赤なヤブツバキの花や緑の芝生が、暫時2月であることを忘れさせます。ハナミズキの蕾もだんだんとふくらんで、3月の開花を待っているようです。

南国温室では、ミカンなど柑橘類が、たわわに実り色づいております。ストレリチア（極楽鳥花）の花も咲いて、別世界の雰囲気を楽しんで頂けます。

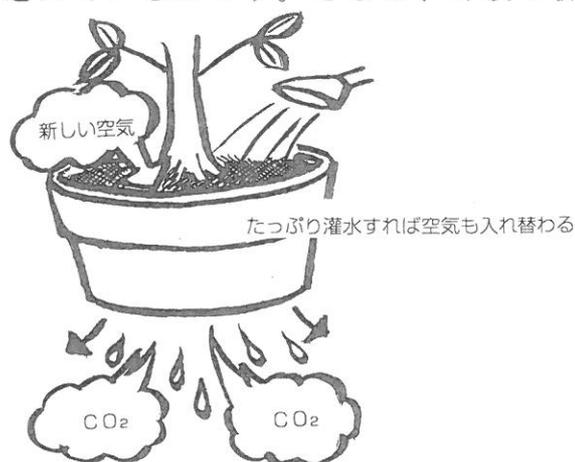
相 談 日 記

問 水が抜けない植木鉢や、通気や透水性の悪い土を用いて植物を育てようとしても、うまくいかないといわれます。また、庭木を植え付けする時も、水はけの悪い場所で樹木を深植えすると、根腐れを起こして枯れてしまいます。水が十分与えられているのに何故根が死んでしまうのでしょうか？川の中州などでもヤナギの木やヨシなどが育っているのに、その原因について知りたいのですが？

答 水はけが悪い土では、土中の酸素が少なくなり、根が酸素不足で呼吸が困難になり、枯死して根腐れを起こすからです。また、土壌中にはたくさんの生物がいて、それがみな呼吸をして二酸化炭素を出しています。有機物が分解される時も、たくさんの二酸化炭素が出てきます。この二酸化炭素の濃度は、土壌中の空気のほうが大気中よりも 10 倍から 100 倍も濃いのですが、100 倍も濃くなると根は呼吸できなくなって死んでしまいます。土の中に深くもぐった根が生きていられるのは、雨水などが土中深くに浸透すると、土中の過剰な二酸化炭素が水に溶けて取り除かれ、水が引いた後に新鮮な空気が入ってくるからなのです。したがって、水はけが良くないと根は深くまで伸びていきません。酸素不足になると、根は地表近くに多く張るようになるのです。このように、土の通気性は根が生きていく上でとても重要なのです。

ところで、河畔に育ち水の中に根を張っているヤナギの根ですが、流れてくる水の中に含まれている酸素を、水と一緒に吸収して利用しているのです。ヤナギ類は皮層通気組織が特に発達していますが、それだけでは不十分なので、水がよどんで水中の酸素が少なくなると、ヤナギといえども生育が苦しくなります。

イネやヨシの根は中空になっていますが、これは空気の少ない水の中でも呼吸ができるよう、地上部から大量の空気を送り込んでいるのです。さらに、呼吸で排出される二酸化炭素はカエルの皮膚呼吸と同様に、根の表面の薄い水に溶けて土の中に放出されますが、一部は通導組織によって葉に送られ、そこで糖生産に利用されるのです。このようにして、水の中でも生きていける工夫がされているのです。



代表的な日本の野生ラン～エビネ 花言葉 にぎやか



エビネは、深山の森林内などに生える地生ランで、ラン科エビネ属の多年生草本です。エビネの仲間はわが国に広く分布し、北海道にも生育し、また、変種の数もたくさんあります。花の色は変化に富み、近年、急速に改良が進んで海外にも紹介されています。キエビネの花の鮮明な黄色、ニオイエビネの優れた香りなど、原種のままでも十分楽しめるものがあります。属名のカランテ (Calanthe) はギリシャ語の Kalos (美しい) と anthos (花) に由来し花が美しいことに因みます。和名は地下茎の連なった様子をエビに見立て、海老根と呼ばれます。手入れのポイントは半日陰を好みますので、直射日光の当たる場所ではよく育ちません。家の北側などに置くとよいでしょう。葉は大きさのわりに質が薄く傷みやすいので、強風には気をつけましょう。花色が多種多様ですので、購入する時は、開花期に気に入った花を選ぶとよいでしょう。また、同時期に若葉も伸びているので、葉色にむらのない健康な株を選びます。

2月の園芸講座・行事案内

市民園芸講座の内容紹介

♣ 土壌と肥料管理のポイント

日時 2月18日(火) 13:00～15:00

講師 農業改良普及センター 普及指導員 さん 定員40人 参加料 無料

♣ 岩見沢公園の冬の森を見る

日時 2月23日(日) 9:30～12:00

講師 山野草研究家 北本 毅 さん 定員40人 参加料 無料

✂ いわみざわ「第5回・洋らん展」

日時 2月20日(木) 9:00～23日(日) 16:00

場所 室内公園「色彩館」ロビー 主催 いわみざわ洋らん愛好会

♣ 洋ラン栽培の楽しみ方

日時 2月23日(日) 13:00～15:00

講師 北海道蘭友会理事 阿部 春樹 さん 定員40人 参加料 無料



編集・発行 北海道グリーンランド(空知リゾートシティ株式会社)

お問い合わせは 室内公園「色彩館」緑の相談コーナー 25-6111 まで